

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290700150		
法人名	有限会社 三河接骨院		
事業所名	グループホーム やわら		
所在地	千葉県 銚子市後飯町 3-18		
自己評価作成日	平成27年3月2日	評価結果市町村受理日	平成27年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成27年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なじみの関係作りを心掛け地元の慣れ親しんだ言葉で会話をしています。それぞれの個性を生かしながらも他の方と楽しくすごして頂けるよう職員が関わってけるよう心がけています
 残存機能の維持と自立意欲向上に向け本人・家族と共に取り組めるよう支援していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者率が30%を超える銚子市の現状に鑑み、地域介護の一端を支えていくという強い思いで昨年開設されたホームである。シャッター街化の兆候も見られる中ではあるが、地域の商店や住民との触れ合いを大切にしている。運営推進会議には有識者などの積極的な参加があり、街づくりの一環としても強い支援の広がりがみられる。職員が腕を振るう食事は、地域の食材にも恵まれ、驚くほど美味で、利用者の楽しみになっている。開設当時のヒヤリ・ハットや事故も激減し、アンケート調査でも利用者・家族からは高い満足度が示されている。今後ともオープンなホームを目指し、地域における確固たる存在となることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念: 1290700150					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	努力している 「なじみの町で共に生きる」を理念とし職員は利用者一人ひとりを尊重し心のこもった対応を心掛けています。	開設一年目であるが、住み慣れた街を愛し、誇りに思う気持ちをそのまま利用者への思いにつなげようという理念を作り、職員間で共有できるよう努力している。	理念はまだ掲示されていないが、できれば目に留まるところに掲示し、利用者・家族はもとより、訪問者にもホームの目指すところを積極的に伝えてほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていない 利用者のご近所のかたが時々訪問して下さっています。施設内での様子等をみて交流しておられます。	人口7万人、高齢化率31%の街の割にはホームは少なく、グループホームの理解度は高くない。地域の商店など社会資源を積極的に利用し、馴染みの関係づくりに努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症で独居の方の情報を受けるときある。 民生委員、包括支援センターと連携し拒否が強い方でも支援につなげている、地域の方は安心されています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施している 2か月おきに実施している。報告と共に検討し改善すべき事項について検討し実施していくようにしています。	2か月に1回併設の小規模多機能ホームと合同で開催している。開設当初のヒヤリ・ハットなど種々の課題について、運営推進会議を積極的に活用して情報を開示・交換し、解決していった経緯が議事録から読み取れる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる 市役所の担当者と密に連絡・相談・報告を行っています。	高齢者福祉課や地域包括支援センターなどの協力を得ている。市から利用者の紹介もあった。近隣からの訪問者は積極的に受け入れ、状況を説明し理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設前の道路事情から事故防止の為玄関の施錠については利用者の安全確保の観点から常にかけています。その他の拘束については行わない方向で取り組んでいます。	利用者に寄り添い、不安の原因を把握するよう努力している。椅子も、個々の利用者の状態に応じて安全なものを選んでいる。漁港を往来する車が多く、歩道もない道路に面していることもあって、安全面から利用者単独での外出はさせていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	予防と防止に向け取り組んでいます。 市役所の研修に参加すると共に、利用者の身体精神状況を把握できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員の理解は出来ていない 現在権利擁護を必要とする利用者はいない 個々の必要性についてその都度、話し合う機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。 契約と重要事項についての説明は管理者が実施家族・本人からの問い合わせにはその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実施してしている 運営推進会議にて市役所担当者並び各先生方と共に家族からの意見・要望を伺い運営に反映させていただいている	家族も運営推進会議に参加してもらい、ホームの状況を開示し、納得の上で運営に協力を仰いでいる。参加者全員でホームを良くしていこうという関係ができています。	プライバシーの保護と、利用者の日ごろの生活の紹介という相反する課題に対して職員間で話し合わせ、写真の掲示方法の工夫など、家族の理解を深める取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	検討している 管理者が職員からの意見を聞き代表者と検討している。記録紙の様式等の改善。備品の購入等	ホーム長のリーダーシップのもと、職員の育成は最大の課題として取り組んでいる。利用者・家族のプライバシーについては職員の意見も積極的に取り上げるなど、サービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員については把握している。 同上心を持ってようスキルアップの研修、資格取得に向けて協力は積極的に行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	取り組むよう努力はしている ミーティング開催、個別指導もその都度実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施している ケアマネ部会に参加事例検討会などで他の事業者から意見を伺う等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている 相談を受け自宅に伺い本人からの話を聞く、アセスメントシートの作成課題文責を本人と共に 作製できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている 相談を受けた際に自宅に伺い家族からの要望等を聞く、アセスメントシートの作成		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施している 課題解決の為に必要とするサービスについての検討するための担当者会議開催を提案し実施しています。		
18		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力している 協力し互いに助け合う関係作りに取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努力している 家族の協力が不可欠であることを職員は認識し家族と連絡ノートを活用し情報交換を行っている 送迎の際報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている ご近所へのあいさつ等実施している	家族・友人・親戚の方との継続的な交流ができるように働きかけている。以前からの習慣についても当たり前ができるよう支援している。地域の方とは地元の食材や野菜を分けて頂く等親しい関係が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努力している 座る位置に気を配り楽しく周りの方と過ごせるようにしている 送迎の順番等も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例なし 事業所・家族等からの依頼があれば対応していく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施している 課題分析シート「アセスメント」実施	日々の関わりの中で一人ひとり「何が出来何がしたいか」どんな話をするときが生き生きしているかを把握している。要望をなんでも言える状況を作り、何を支援すればよいか聴き取り、可能な限り叶えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている 積極的に職員が話しかけることで会話の中から昔から現在までの状況について把握することが出来ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている 通いや訪問時間以外の自宅での過ごし方は家族間のお話をうかがう事で精神状態を含め把握が出来ています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努力している 担当者会議の開催実施計画作成し職員家族からの聞き取りを行いモニタリングを作製している	日々の介護記録を基に 本人、家族、関係者と話し合い介護計画が立てられる。毎月モニタリング、カンファレンスをし生活全体を通して身体機能の低下を抑え、穏やかな生活が送れるようケアプランの作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施している 日々の経過記録を個別に作成し常に確認できるように整理されている。職員間では申し送りノートに記載内容を確認し印鑑を押す事になっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力している 小規模の機能について説明し柔軟なサービス対応ができるようシフトの調整等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力はしている 地域の見守り・声かけ支援などの協力が得られているが地域の行事参加にまでは実践できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている 家族の付き添いが困難な方について、職員又は看護師が付き添い受診をしている。	入居前から受診している場合は家族の同行を基本としている。緊急時は協力病院に看護師の職員が付き添っている。インフルエンザの予防接種など銚子市立病院の往診が有り、訪問歯科、歯科衛生士の口腔ケアの指導も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施している バイタルチェック、服薬等については看護師と連携を図り本人の状態に沿って受診等にも対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている 家族・看護師等と連携を図るため病室に伺う、また退院に向けてケアカンファレンスを開催の際には出席している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設では看取りの体制はとれていない 今後対応できるような体制作りを検討していく予定	重度化や終末期については入居時に、できないことを十分説明して同意を得ている。早めの家族との話し合い、今後の方針、意志の共有を図るため、いつでも相談してもらえるよう体制づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員に対し実施出来ていない 看護師に対応してもらっている マニュアルに沿って職員には伝えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築けていない 年2回の避難訓練を予定している(26年10月実施)	小規模ホームと合同の火災、地震の避難訓練を行っている。避難誘導を自力、車椅子、それぞれ避難口からの脱出を経験している。この経験を活かし反省点を基に委員会を作り災害対策に取り組もうとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している 本人に確認しながら別室にてお話を聞く体制を取っている 接遇自己チェックシートを作製し評価している	いつも有難うの気持ちを声にだし、入居者の尊厳を損ねないように声掛けをしている。スキンシップをたいせつに、心に入り込む言葉遣いに心を掛け、自己決定がしやすいように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	努力している 確認するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力している 入浴について、午前の入浴、午後の入浴、機能訓練の参加等個別化している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ていない時もある 準備したものを本人に着て頂くようにしている 一緒に選ぶような声掛けが出来ていない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している メニュー表を家族にもお知らせし家族と献立表を見ながら会話ができるようにしている 配膳・片付け等のお手伝いを声掛けし職員と一緒に行っていただいている。	入居者の状態にあった食事形態を提供している。食事は地元の豊富な食材を使い季節感のある料理で利用者に好評である。職員と会話を交わしながら楽しい食卓を囲んでいる。できる方は配膳や片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は実施している。 形状等本人に沿って行い記録に残し経過観察ができるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施出来ないことが多い うがい歯磨きについて声かけを行っているが本人拒否することが多く、出来ていない方が多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施している 本人の自立意欲向上の支援として移動移乗について機能訓練を取り入れ実施している	排泄チェック表により声掛けをトイレでの排泄が出来ている。声掛けはそっとプライバシーにも配慮している。トイレには前面ボード付便座が設置され一人での立ち上がりが楽にでき、プライバシーも守られ自立の方が増えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	疾病等に沿って取り組んでいる。 自宅での様子を把握できていない 医師からの指示がある方について、指示に従い実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	実施出来る様声かけを行っている 特に曜日を決めることはしていない状態により毎日でも入れる様にしている	入浴は2日に一度、いつでも自由に入ることができる。朝ぶろの方、寝る前に入る方と楽しみの一つになっている。ヒートショック対策も取られた安全安心な支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している 食後の休息について個々に沿って実施ベッドに移動される方、長椅子で休まれる方それぞれ自由にできるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施している 処方箋、説明書等をコピーし管理、看護師と共に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	把握し切れていない 本人・家族からの聴き取りでレクレーションにつなげる努力はしている。カラオケ、ゲームなど		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来ていない イベントとして初詣・花見等を行う計画はあるが 希望に沿うことは出来ていない	天気の良い日は散歩や近所の商店に買い物に出かけるなど気分転換と健康増進が図られている。郷土のお祭り「銚子港祭り」やよさこい祭りに参加して懐かしい時を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設に金品を持ち込むことはしていない 自宅で近所に買い物に出かける支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	泊りの利用者について家族に連絡を取る事は実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している 明るすぎないように証明に工夫をしている、季節を感じられるよう毎月模様替えを行っている手作りカレンダーを掲示している	広い廊下、高い天井、大きな窓など心地よく過ごせるための空間が確保されている。オープンキッチンからは食事の準備の活気が漂い、朝の掃除と健康体操を行うことで、利用者は生活リズムを整え自分の居場所として安心している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施している。 個々の椅子使用、長椅子、等自由に利用者が座れるようにしている。職員が見守りが出来る位置をにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	検討している 本人の身体能力に合わせ検討している	広く清潔な居室は作り付のクローゼットがあり、使い慣れた家具や思い出の品を持ち込み、居心地良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮出来ている 建物内部は全てバリアフリー化しているあが自立した生活に対する工夫として特に行っていない。		